

研究主題

「思いや意図を音楽表現に生かそうとする児童の育成 —思考ツールを活用した指導法の開発—」

東京都教職員研修センター研修部教育経営課
中央区立明正小学校 主任教諭 道嶋 美音

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年7月）には、「音楽表現を工夫するとは、どのように表現するかについて思いや意図をもつこと」など三つの資質・能力の全てに思いや意図の記載がある。また、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（令和3年）では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である」と示されている。

これらから音楽科の目標を達成するために、個別最適な学びと協働的な学びを充実させながら、思いや意図をもたせることが大切であると考えます。

教員を対象としたアンケートでも、指導で大切にしていることについて「思いや意図をもって演奏できるようにすること」が挙げられている。一方で、児童を対象としたアンケートでは、思いや意図をもって伝えたり、音楽表現に生かそうとしたりすることに課題がみられた。

この課題を解決するために、思いや意図を表出させる必要があると考えた。そこで研究の手だてとして思考を可視化することのできる思考ツールに注目した。

以上のことから、本研究では、思考ツールを活用して児童に思いや意図をもたせ、他者と協働して広げたり深めたりしながら音楽表現に生かそうとする児童を育成していくことをねらいとした。

第2 研究仮説

思考ツールの活用を通して、児童が思いや意図をもつことができれば、他者と協働して思いや意図を広げたり深めたりして、音楽表現に生かそうとするであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 研究で使用する言葉の整理と定義付け

小学校学習指導要領解説を参考に、研究で使用する言葉について、整理と定義付けを行った（表1）。

表1 本研究で使用する言葉の整理と定義付け

思いや意図	思いは表現に対する自分の明確な考えや願いであり、思いを実現するために行うものが意図である
思考ツール	比較や分類を図や表を使って視覚的に行い、思考を可視化するもの

(2) 思考ツールを活用した授業事例研究

先行研究としては、令和4年度教育研究員研究報告書から、歌唱「とどけよう このゆめを」で思考ツール（座標軸）を活用して思いや意図をもたせる授業事例があった。また、思考ツールを活用して旋律の特徴を捉えることができるような研究が書籍やウェブサイト上で紹介されていた。

2 調査研究

中央区内公立小学校2校の第5学年児童161人を対象に、「音楽の授業で大切にしていること」について調査を行った。また、中央区内小学校16校の音楽科教員21人を対象に、「指導で大切にしていること」や「思考ツールの活用」について調査を行い、結果から課題を分析した。

(1) 表現で大切にしていることについて（児童対象）

児童は、表現で大切にしていることについて、リズムや歌詞などの音楽の諸要素を大切に考えている。

一方で、思いや意図を大切にしていると回答した児童は、他の項目に比べて低いことが明らかになった（図1）。

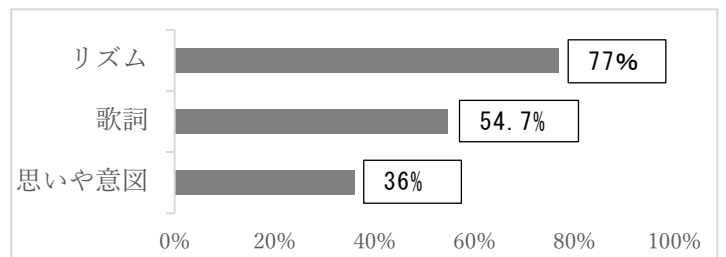


図1 「表現で大切にしていること（複数回答可）」の回答

(2) 思考ツールの活用について（音楽科教員対象）

思考ツールを活用することについて、「自分の考えを整理するのに役立つ」や、「思考が深まりやすい」などの意見もあった一方で、思考ツールを活用していない理由として、「思考ツールについて詳しくない」「うまく使えない」「指導に時間がとられる」などが挙げられた。これらの背景として、思考ツールの活用事例の不足が課題の一つにあると考えた。

3 開発研究

調査研究の結果を踏まえ、思いや意図をもつために、思考ツールを取り入れた授業実践を計画した（表2）。

表2 検証授業で扱った教材

第1時	第2時	第3時	第4時
鑑賞曲「待ちぼうけ」		歌唱曲「スキーの歌」	

(1) 第1時・第2時

鑑賞曲「待ちぼうけ」は、詩と旋律が一体となっていて、演奏者によって様々な工夫があることから、作詞者、作曲者、演奏者の3つの視点で考えることができるYチャートを取り入れた。

また、ミュージックベルから音が鳴り響いている様子を、Yチャートにみたと、児童に親しみやすいものにした。また、第2時では、Yチャートを応用させ、中心部に自身の思いについて記入する欄を設けた（図2）。

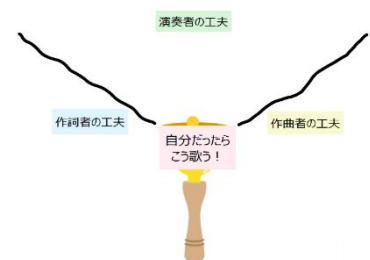


図2 授業で活用した思考ツール

(2) 第3時

歌唱曲に対して共有場面で思考ツールを活用した。イメージマップから歌詞や情景の理解につなげた(図3)。

そして、マトリックスを使って旋律の特徴を捉え、曲想に合った歌い方を矢印と囲みを使ってまとめた(図4)。

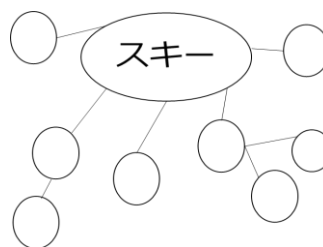


図3 授業で活用した思考ツール

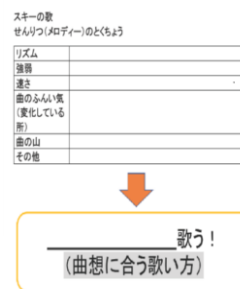


図4 授業で活用した思考ツール

(3) 第4時

曲想に合う歌い方について具体的に考えられるよう、フィッシュボーンにフレーズごとの旋律を記載したワークシートを作成した。魚の頭には、どのように歌いたいか自分の思いや意図を、骨の部分にはフレーズごとに歌い方の工夫を記述できるようにした(図5)。

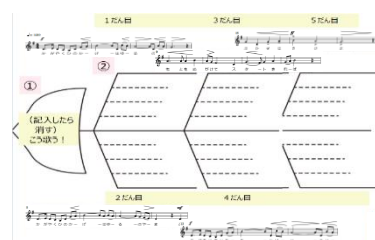


図5 授業で活用した思考ツール

4 検証授業の概要及び調査結果

(1) 検証授業の概要

都内公立小学校第5学年(58人)を対象に、令和5年10月から11月までの期間に、各4回の検証授業を実施した。(題材名「詩と音楽の関わりを味わおう」)

(2) 検証授業の分析

ア 思いや意図をもつための思考ツールの活用について

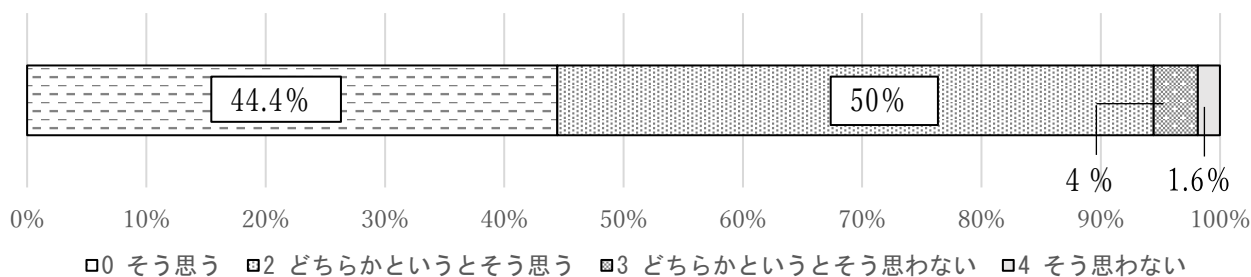


図6 「思考ツールの活用によって、思いや意図をもつことができましたか。」の回答

検証授業後に行った「思考ツールを使うことによって、思いや意図をもつことができましたか。」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかというと思う」と回答した児童の割合は94.4%であった(図6)。

また、学習の振り返りから以下の意見が挙げられた(表3)。

表3 検証授業での学習の振り返りより（児童の記述）

児童A	思いや意図を音楽表現に生かそうとしている児童	書くところが分かれていて、頭の中で思っていることが整理できました。また友達にほめてもらったことで、自信をもって音楽表現に生かそうと思いました。
児童B	思いや意図を伝えることができるようになった児童	思考ツールを使うことで、自分の考えを書けたし、友達の考えも見やすくてよくわかりました。前より思いや意図を伝えることができるようになりました。
児童C	思考ツールの活用課題の残った児童	少し難しかったです。もともとあまり自分の思いを考えないし、思考ツールがあっても変わらなかったです。
児童D	思考ツールを活用しなくてもよい児童	思考ツールを使わなくても、自分の思いや意図を表現できると思いました。また、曲によって表現のしやすさに差があると感じました。「スキーの歌」は表現することが難しかったです。

イ 検証授業の効果検証

指導法の効果を検証するために、検証授業前後の児童48人を対象としてアンケートを行い、結果を分析した。具体的には、「思いや意図を書いたり伝えたりし、音楽表現に生かすことができる。」を4、「思いや意図を言葉で書いたり伝えたりできる。」を3、「思いや意図をもっているが、言葉で書いたり伝えたりすることはあまりしていない」を2、「思いや意図をどのように考えたらよいか分からない」を1として、回答してもらったものを集計し、合計点から平均値を算出した（最小値1、最大値4）。

集計から得られた検証授業前の平均値（ $M = 2.73$ ）と検証授業後の平均値（ $M = 3.15$ ）との間に差があるかを検証するため、対応のある t 検定を実施した（両側検定）。その結果、平均値に有意な差が見られた（ $t(47) = 2.93, r = 0.328, p < 0.01$ ）。

p 値は一般的に0.05より小さいと有意差があると言われており、 t 検定の結果から、指導法に一定の効果があつたと考えた。

第4 研究の成果

研究の成果は次の二点である。

第一に、検証授業の効果検証から、思考ツールの活用が思いや意図をもつために有効であることが分かり、思いや意図をもつことのできる指導法の開発をすることができた。第二に、思考ツール授業モデル例をデジタルブックにまとめることができた。

第5 今後の課題

課題は次の二点である。

第一に、思いや意図をもつことについて、どの題材や思考ツールが適しているのか検証を続けていく。第二に、本研究を東京都や、所属校、所属区内等に広め、普及させていく。